

# 定量的な基準の導入について

石川県健康福祉部  
地域医療推進室

## はじめに

- 現在、病床機能報告は、“定性的な基準”に基づき、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の4区分で届出が行われている。
- 一方、診療報酬においては、施設基準ごとに入院患者像がある程度明確化されており、入院患者像に応じて人員配置などの詳細な基準が定められている。

### (1) 特定入院料を算定している病棟（地域包括ケア病棟を除く）については、

- ・施設基準上、特に入院患者像が明確化されており、これらの病院・病棟ごとの入院患者像は大きく異ならないと考えられる。
- ・また、国において、「診療報酬上の基準」と「病床機能報告の区分」との関係が整理されており、本県では、概ね国の想定する病床機能区分に届出されている。

### (2) 一般入院料を算定している病棟と地域包括ケア病棟(次ページの図でピンク色に表示)については、

- ・施設基準上、(1)に比べ、多様な患者が入院することが想定されており、同じ施設基準の病棟であっても、病院・病棟ごとの入院患者像が異なっている可能性がある。
- こうしたことから、今回、“定量的な基準”を用いて、(2)の病棟の患者像などをより客観的に分析することとした。

## 「病床機能報告の区分」と「診療報酬上の基準」の対応関係

病床機能報告		診療報酬上の届出				
届出区分	定義	特定入院料		一般入院料		
<b>高度急性期</b>	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、診療密度が特に高い医療を提供	救命救急（救命救急入院料） ICU（特定集中治療室管理料） HCU（ハイケアユニット入院医療管理料） SCU（脳卒中ケアユニット入院医療管理料） MFICU（総合周産期特定集中治療室管理料） NICU（新生児特定集中治療室管理料） GCU（新生児治療回復室入院管理料）		<b>一般病棟①</b>  （特定機能病院 入院基本料 ・ 急性期一般 入院基本料1）		
<b>急性期</b>	○急性期の患者に対し、状態の早期安定化に向けて、医療を提供する機能	小児病棟（小児入院医療管理料）			<b>一般病棟②</b>  （急性期一般入院 基本料2～7）	
<b>回復期</b>	○急性期を経過した患者への在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを提供する機能  ○特に、急性期を経過した脳血管疾患や大腿骨頸部骨折等の患者に対し、ADLの向上や在宅復帰を目的としたリハビリテーションを集中的に提供する機能（回復期リハビリテーション機能）。	緩和ケア病棟 （緩和ケア病棟入院料）	<b>地域包括 ケア病棟</b> （地域包括ケア病棟 入院料）			<b>一般病棟③</b>  （地域一般入院基本料）
<b>慢性期</b>	○長期にわたり療養が必要な患者を入院させる機能  ○長期にわたり療養が必要な重度な障害者（重度の意識障害者を含む）、筋ジストロフィー患者又は難病患者等を入院させる機能	障害者施設等（障害者施設等入院基本料）  特殊疾患（特殊疾患入院医療管理料等）  療養病棟（療養病棟入院基本料）				

（注）「診療報酬上の基準（特定入院基本料の一部）」と「病床機能報告の区分」との対応関係については、①～③は、国の想定する対応関係に準拠しており、④、⑤は、国において対応関係が必ずしも明確化されていないことから、本県の実態を踏まえ対応関係を整理した。

- |                                |                    |
|--------------------------------|--------------------|
| ①救命救急、ICU、HCU、SCU、NICU、MFICUなど | → 「高度急性期」          |
| ②回復期リハ病棟                       | → 「回復期」            |
| ③療養病棟、特殊疾患病棟、障害者施設等            | → 「慢性期」            |
| ④小児入院医療管理料                     | → 「高度急性期」 又は 「急性期」 |
| ⑤緩和ケア病棟入院料                     | → 「急性期」 又は 「回復期」   |

## 定量的な基準の検討対象

- レセプトデータを基に算定された「2025年の必要病床数」では、「回復期」の患者像に、「在宅で療養を行っている患者等」（肺炎や軽度の外傷などによる緊急入院、糖尿病の教育入院などの予定入院）や「急性期治療を経過した患者」を含められていると考えられる。一方、「病床機能報告」において“急性期（高度急性期）”と届出された病棟の中には、「在宅で療養を行っている患者等」や「急性期治療を経過した患者」が比較的多い病棟もあると想定される。
- 今回は、2025年の必要病床数と現在の病床数の間で差がみられる「回復期」の詳細を明らかにするために、急性期と回復期を区分するための定量的な基準を用いて客観的に分析する。

病床機能報告	患者像（イメージ）	2025必要病床数
高度急性期	(重症) 急性期 重篤患者や全身麻酔による手術等を要する患者の受入	高度急性期 (3000点以上)
急性期		急性期 (600点以上)
回復期	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border: 1px solid black;">在宅で療養 を行っている患者等</div> <div style="background-color: #90EE90; padding: 5px; border: 1px solid black;">急性期治療 を経過した患者</div> </div>	回復期 (175点以上)
慢性期	長期療養	慢性期 (175点未満)

## 定量的な基準を用いた病床数の計算

### (1) 「2025年の具体的な対応方針」を踏まえた病床数

- 2025年の具体的な対応方針において、「高度急性期」から「急性期」、「急性期」から「回復期」など、転換が計画されている病棟は、転換することを見込んで、病床機能別の病床数を集計

2025年の回復期病床は、必要病床数（参考値）に比べ、少ない状況

### (2) 他県の「定量的な基準」を用いた病床数の試算

- 一般入院基本料と地域包括ケア病棟を算定し、「高度急性期／急性期」の届出をしている病棟について、他県の定量的な基準（3つの方式）を用いて病床数を試算

#### 《佐賀県の基準》

- 1) 地域包括ケア病床は、平均在棟日数に関わらず、「回復期」として集計
- 2) 平均在棟日数が22日超の病棟を、「回復期」として集計

#### 《埼玉県の基準》

- 1) 「高度急性期」と「急性期」の区分  
手術件数（がん、脳卒中、心血管疾患）や救急の受け入れ件数等（\*）をもとに、救命救急入院料やICUの大半が高度急性期に区分されるよう区分線を設定
- 2) 「急性期」と「回復期」の区分  
手術件数（がん、脳卒中、心血管疾患）やがんの化学療法、医療・看護必要度等（\*）をもとに、一般病棟7：1の大半が急性期に区分されるよう区分線を設定  
(\*）区分線を設定するための具体的な項目やしきい値は、【次ページ】参照

#### 《奈良県の基準》

- 1日あたり・50床当たりの手術件数と救急医療入院件数が2未満の病棟を「回復期」として集計

# 埼玉県の定量的な基準 (区分線を設定するための具体的な項目やしきい値)

区分線1で高度急性期に分類する要件		しきい値	
		稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合
手術	A 全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上
	B 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上
がん	C 悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上
脳卒中	D 超急性期脳卒中加算	あり	あり
	E 脳血管内手術	あり	あり
心血管疾患	F 経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上
救急	G 救急搬送診療料	あり	あり
	H 救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管・カウンターショック ・体表・食道ヘーシング法・心膜穿刺 ・非開胸的心マッサージ・食道圧止血チューブ挿入法	0.2回/月・床以上	8回/月以上
	I 重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的肺動脈圧測定・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・持続経徐式血液濾過・人工心臓 ・大動脈バルーンポンピング法・血漿交換療法 ・経皮的気管挿入法・吸着式血液浄化法 ・人工心臓・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上
全身管理	J 全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超)・胸腔穿刺 ・ドレーン法・人工呼吸(5時間超)	8.0回/月・床以上	320回/月以上

上記A～Jのうち1つ以上を満たす

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

該当する病棟の割合（全国）				
救命・ICU・SCU・HCU	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 7:1以外 (※)	有床診の一般病棟 (※)	地域包括ケア病棟
49.8%	1.5%	0.6%	1.9%	0.0%
33.5%	3.3%	0.3%	0.3%	0.1%
35.5%	3.2%	0.4%	0.6%	0.0%
20.1%	0.7%	0.1%	0.0%	算定不可
29.3%	2.6%	1.0%	0.2%	0.0%
23.4%	2.1%	0.4%	0.5%	0.0%
16.1%	2.6%	0.5%	0.1%	算定不可
66.0%	2.4%	1.0%	0.8%	0.2%
53.8%	2.4%	0.5%	0.2%	0.1%
48.4%	1.6%	0.4%	0.3%	0.0%
90.9%	17.0%	4.5%	4.2%	1.1%

該当する病棟の割合（石川県）				
救命・ICU・SCU	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 7:1以外 (※)	有床診の一般病棟 (※)	地域包括ケア病棟
47.4%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
36.8%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
52.6%	0.9%	0.0%	2.9%	0.0%
31.6%	0.0%	0.0%	0.0%	算定不可
26.3%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
36.8%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	算定不可
84.2%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
73.7%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%
31.6%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
94.7%	8.0%	0.0%	2.9%	0.0%

区分線2で急性期に分類する要件		しきい値	
		稼働病床1床当たりの月間の回数	40床の病棟に換算した場合
手術	K 手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上
	L 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上
がん	M 放射線治療（ <b>レセプト枚数</b> ）	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上
	N 化学療法（ <b>日数</b> ）	1.0日/月・床以上	40日/月以上
救急	O 予定外の救急医療入院の人数	10人/月・床以上	400人/月以上
重症度等	P 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上

上記K～Pのうち1つ以上を満たす

該当する病棟の割合（全国）				
一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の一般病棟 (※)	地域包括ケア病棟
9.6%	3.9%	1.1%	15.9%	0.2%
20.8%	7.8%	0.7%	0.6%	0.5%
12.0%	1.9%	0.3%	0.3%	0.2%
18.9%	3.9%	0.8%	1.7%	1.4%
12.4%	8.7%	1.7%	0.0%	0.4%
67.8%	29.1%	1.9%	0.0%	5.7%
83.1%	43.8%	7.8%	19.0%	8.8%

該当する病棟の割合（石川県）				
一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の一般病棟 (※)	地域包括ケア病棟
4.5%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%
15.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
13.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
22.3%	0.0%	16.7%	2.9%	4.3%
3.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
75.9%	24.0%	0.0%	0.0%	4.3%
84.8%	24.0%	16.7%	20.6%	8.7%

## 定量的な基準を用いた試算結果（南加賀）

- (1) 2025年の具体的対応方針では、急性期の1病棟が回復期に転換する予定である。
- (2) 3つの定量的な基準を用いて集計した結果、「回復期（相当）」には、①佐賀方式では**2病院の2病棟95床**、②埼玉方式では**5病院の5病棟241床**、③奈良方式では**9病院の15病棟650床**、が該当し、
- (3) それらを「回復期」として機械的に集計した結果、  
 ①佐賀方式では**443床**、②埼玉方式では**589床**、③奈良方式では**988床**、となった。

	病床数の推移			
	H26	H27	H28	H29
高度急性期	0	32	30	40
急性期	1,425	1,310	1,283	1,235
回復期	232	286	253	294
慢性期	921	886	844	800
(計)	2,578	2,514	2,410	2,369

(1) 2025年 対応方針	(参考値) 2025年 必要病床数
40	146
1,092	696
348	567
667	604
2,147	2,013

### 他県の定量的な基準を用いた試算

	(2)回復期(相当)とされる病棟									(3)回復期(相当)とされる病棟を回復期として機械的に集計		
	佐賀方式			埼玉方式			奈良方式			佐賀方式	埼玉方式	奈良方式
	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数			
高度急性期										40	40	40
急性期	2	2	95	5	5	241	9	15	650	997	851	442
回復期										443	589	988
慢性期										667	667	667
(計)	2	2	95	5	5	241	9	15	650	2,147	2,147	2,147

## 定量的な基準を用いた試算結果（石川中央）

- (1) 2025年の具体的対応方針では、急性期の5病棟、慢性期の2病棟が回復期に転換する予定である。
- (2) 3つの定量的な基準を用いた集計した結果、「回復期（相当）」には、①佐賀方式では10病院の11病棟298床（このうち5病棟は地域包括ケア病床分のみ）、②埼玉方式では16病院の21病棟893床、③奈良方式では28病院の76病棟3,226床、が該当し、
- (3) それらを「回復期」として機械的に集計した結果、  
 ①佐賀方式では1,666床、②埼玉方式では2,261床、③奈良方式では4,594床、となった。

### 病床数の推移

	病床数の推移				(1) 2025年 対応方針	(参考値) 2025年 必要病床数
	H26	H27	H28	H29		
高度急性期	2,218	2,359	2,381	2,388	2,311	940
急性期	3,853	3,329	3,292	3,128	2,943	2,659
回復期	696	903	969	1,113	1,368	2,648
慢性期	3,382	3,136	3,126	3,182	2,836	1,913
(計)	10,149	9,727	9,768	9,811	9,458	8,160

### 他県の定量的な基準を用いた試算

	(2)回復期(相当)とされる病棟									(3)回復期(相当)とされる病棟を回復期として機械的に集計		
	佐賀方式			埼玉方式			奈良方式			佐賀方式	埼玉方式	奈良方式
	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数			
高度急性期	2	3	131	3	6	240	4	33	1,430	2,180	485	881
急性期	8	8	167	14	15	653	25	43	1,796	2,776	3,876	1,147
回復期										1,666	2,261	4,594
慢性期										2,836	2,836	2,836
(計)	10	11	298	16	21	893	28	76	3,226	9,458	9,458	9,458

※ (2) ①～③の病院数の計について、高度急性期と急性期どちらにも該当する病院があるため、単純に2つ合計したものとは合わない。

※ (3) ②については、定量的基準により高度急性期のうち急性期相当とされた病床数を急性期に含め集計している。



## 定量的な基準を用いた試算結果（能登中部）

- (1) 2025年の具体的対応方針では、急性期の1病棟が回復期に転換する予定である。
- (2) 他県の定量的な基準を用いて集計した結果、「回復期（相当）」には、①佐賀方式では3病院の3病棟122床（このうち1病棟は地域包括ケア病床分のみ）、②埼玉方式では5病院の7病棟330床、③奈良方式では6病院の14病棟679床、が該当し、
- (3) それらを「回復期」として機械的に集計した結果、  
 ①佐賀方式では387床、②埼玉方式では595床、③奈良方式では944床、となった。

	病床数の推移			
	H26	H27	H28	H29
高度急性期	0	50	52	64
急性期	1,070	1,002	980	897
回復期	94	171	152	225
慢性期	603	555	526	494
(計)	1,767	1,778	1,710	1,680

(1) 2025年 対応方針	(参考値) 2025年 必要病床数
64	108
857	417
265	325
323	425
1,509	1,275

### 他県の定量的な基準を用いた試算

	(2)回復期(相当)とされる病棟									(3)回復期(相当)とされる病棟を回復期として機械的に集計		
	佐賀方式			埼玉方式			奈良方式			佐賀方式	埼玉方式	奈良方式
	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数			
高度急性期										64	56	64
急性期	3	3	122	5	7	330	6	14	679	735	535	178
回復期										387	595	944
慢性期										323	323	323
(計)	3	3	122	5	7	330	6	14	679	1,509	1,509	1,509

※ (3) ②については、定量的基準により高度急性期のうち急性期相当とされた病床数を急性期に含め集計している。

## 定量的な基準を用いた試算結果（能登北部）

- (1) 2025年の具体的対応方針では、急性期の1病棟が回復期に転換する予定である。
- (2) 他県の定量的な基準を用いて集計した結果、「回復期（相当）」には、①佐賀方式では1病院の1病棟14床（この1病棟は地域包括ケア病床分のみ）、②埼玉方式では4病院の7病棟350床、③奈良方式では4病院の7病棟352床、が「回復期」に該当し、
- (3) それらを「回復期」として機械的に集計した結果、  
 ①佐賀方式では115床、②埼玉方式では451床、③奈良方式では③453床、となった。

	病床数の推移				(1) 2025年 対応方針	(参考値) 2025年 必要病床数
	H26	H27	H28	H29		
高度急性期	0	0	0	0	0	31
急性期	530	530	475	475	404	158
回復期	0	0	52	52	101	154
慢性期	261	261	260	260	228	108
(計)	791	791	787	787	733	451

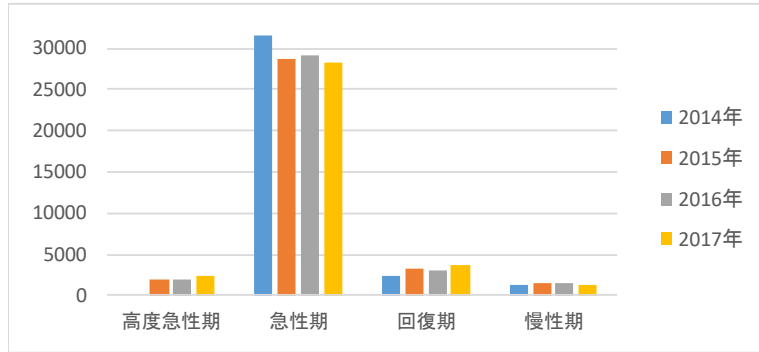
### 他県の定量的な基準を用いた試算

	(2)回復期(相当)とされる病棟									(3)回復期(相当)とされる病棟を回復期として機械的に集計		
	佐賀方式			埼玉方式			奈良方式			佐賀方式	埼玉方式	奈良方式
	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数	病院数	病棟数	病床数			
高度急性期										0	0	0
急性期	1	1	14	4	7	350	4	7	352	390	54	52
回復期										115	451	453
慢性期										228	228	228
(計)	1	1	14	4	7	350	4	7	352	733	733	733

(参考資料) 新入院患者数・平均在棟日数・病床数・病床稼働率の推移 (南加賀)

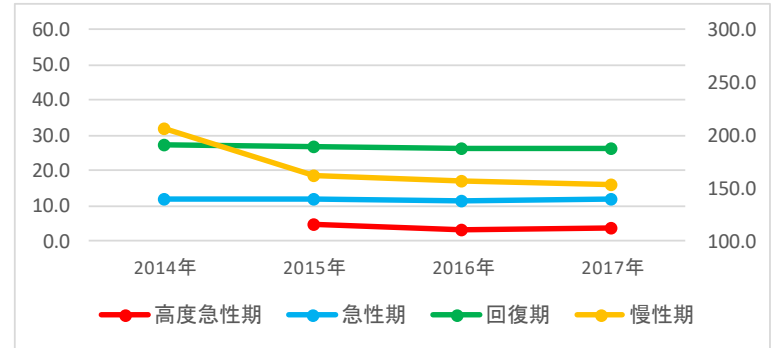
①新規入棟患者数 単位:人

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		1834	2019	2400
急性期	31511	28709	29058	28384
回復期	2391	3177	3073	3685
慢性期	1201	1506	1546	1381



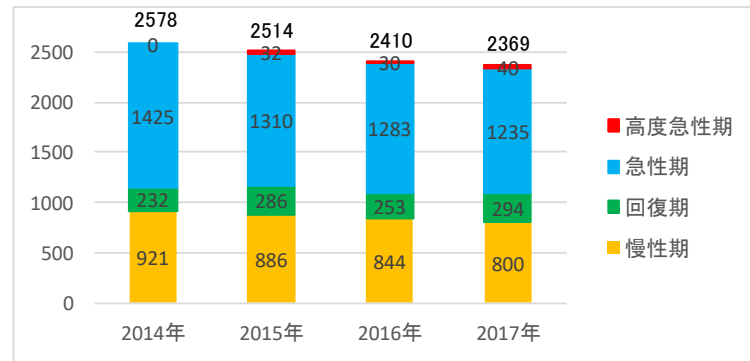
②平均在棟日数 単位:日

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		4.6	3.3	3.9
急性期	12.0	12.0	11.5	11.9
回復期	27.3	26.9	26.3	26.2
慢性期	206.7	162.5	157.5	153.0



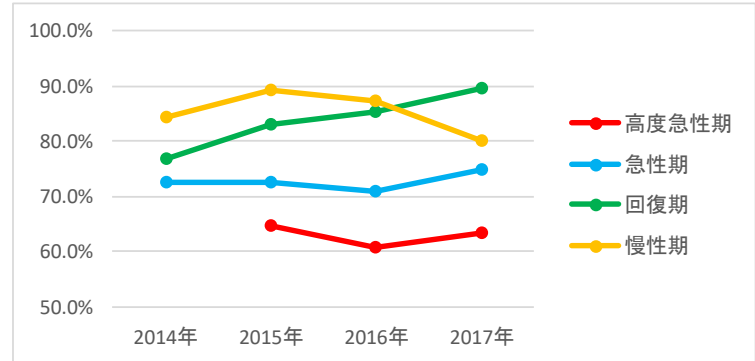
③病床数 単位:床

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	0	32	30	40
急性期	1425	1310	1283	1235
回復期	232	286	253	294
慢性期	921	886	844	800
計	2578	2514	2410	2369



④病床稼働率

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		64.8%	60.8%	63.2%
急性期	72.4%	72.4%	70.8%	74.9%
回復期	76.6%	82.8%	85.3%	89.6%
慢性期	84.1%	89.3%	87.4%	80.1%

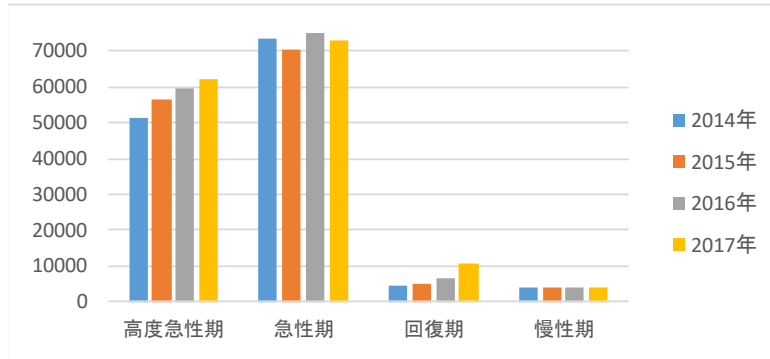


(参考資料) 新入院患者数・平均在棟日数・病床数・病床稼働率の推移 (石川中央)

①新規入棟患者数

単位:人

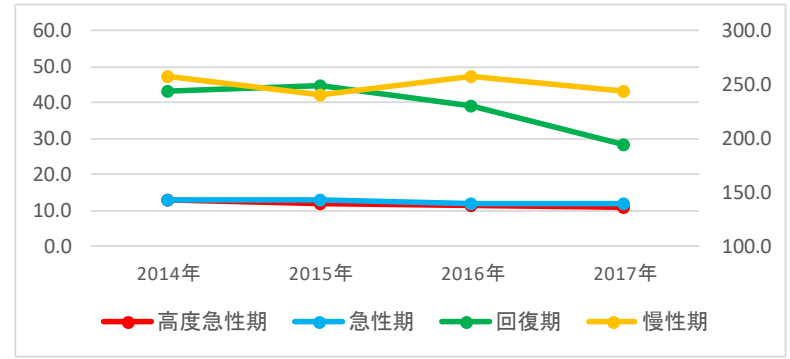
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	51542	56355	59811	61949
急性期	73624	70177	76215	72918
回復期	4389	4863	6828	10755
慢性期	4013	4077	3806	4198



②平均在棟日数

単位:日

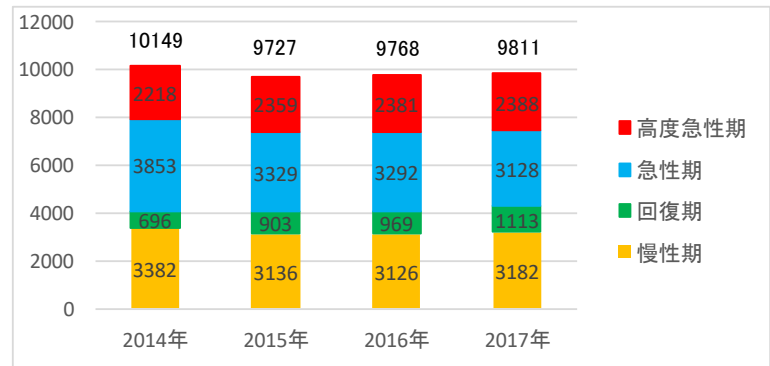
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	12.9	11.9	11.6	11.2
急性期	13.2	12.9	12.1	12.1
回復期	43.4	45.0	39.1	28.5
慢性期	258.3	240.3	257.3	244.2



③病床数

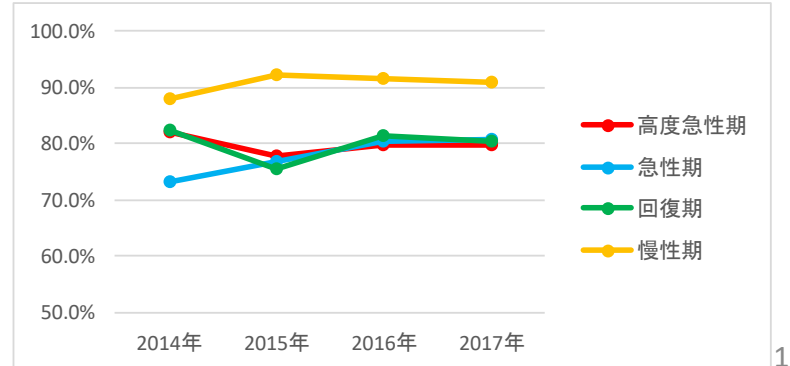
単位:床

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	2218	2359	2381	2388
急性期	3853	3329	3292	3128
回復期	696	903	969	1113
慢性期	3382	3136	3126	3182
計	10149	9727	9768	9811



④病床稼働率

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	81.9%	77.7%	79.8%	79.7%
急性期	73.1%	76.6%	80.3%	80.7%
回復期	82.2%	75.6%	81.3%	80.2%
慢性期	87.8%	92.1%	91.6%	90.9%

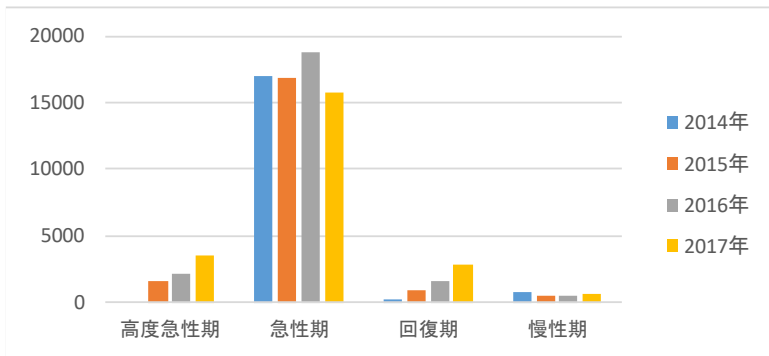


(参考資料) 新入院患者数・平均在棟日数・病床数・病床稼働率の推移 (能登中部)

①新規入棟患者数

単位:人

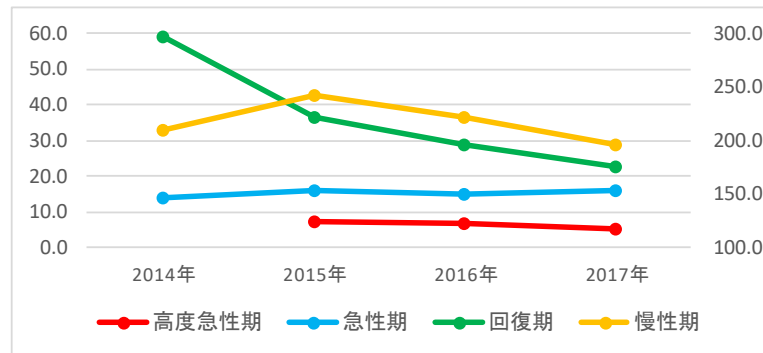
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		1679	2235	3573
急性期	16968	16800	18825	15691
回復期	318	942	1612	2896
慢性期	767	572	548	636



②平均在棟日数

単位:日

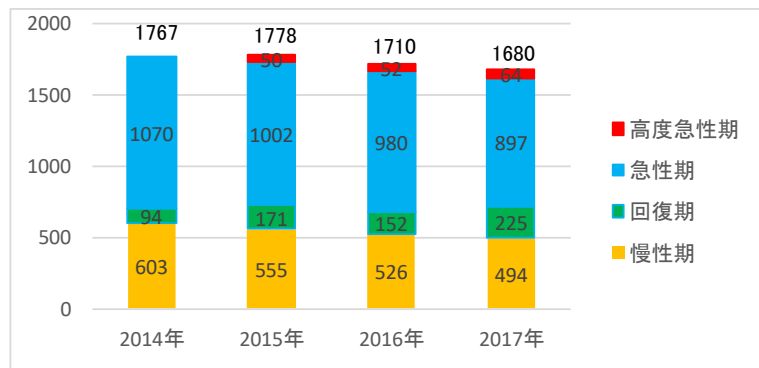
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		7.6	6.8	5.3
急性期	13.8	15.9	14.9	16.0
回復期	58.9	36.8	28.7	23.0
慢性期	209.3	243.1	222.5	196.9



③病床数

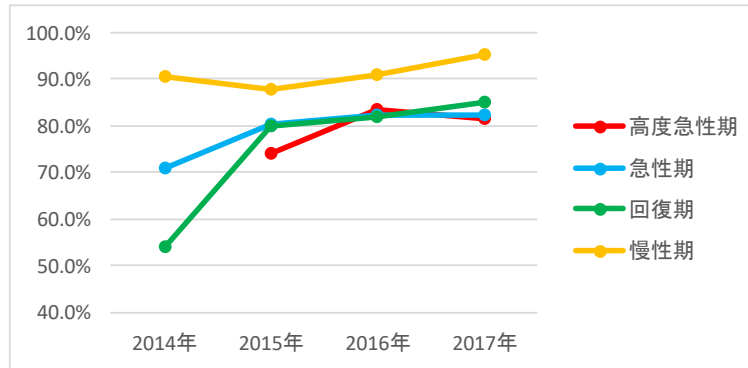
単位:床

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		50	52	64
急性期	1070	1002	980	897
回復期	94	171	152	225
慢性期	603	555	526	494
計	1767	1778	1710	1680



④病床稼働率

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期		74.2%	83.4%	81.4%
急性期	71.0%	80.2%	82.1%	82.5%
回復期	54.0%	80.0%	82.0%	84.9%
慢性期	90.6%	88.0%	91.1%	95.4%

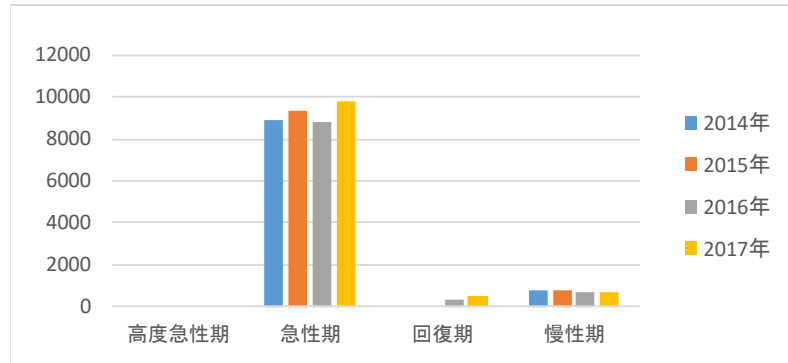


(参考資料) 新入院患者数・平均在棟日数・病床数・病床稼働率の推移 (能登北部)

①新規入棟患者数

単位:人

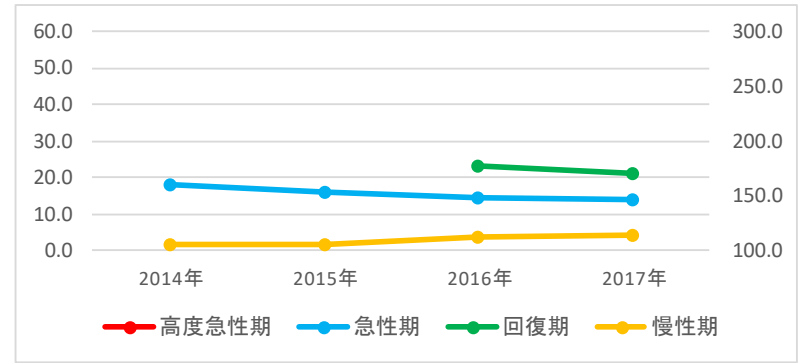
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期				
急性期	8894	9344	8827	9828
回復期			372	499
慢性期	801	797	701	697



②平均在棟日数

単位:日

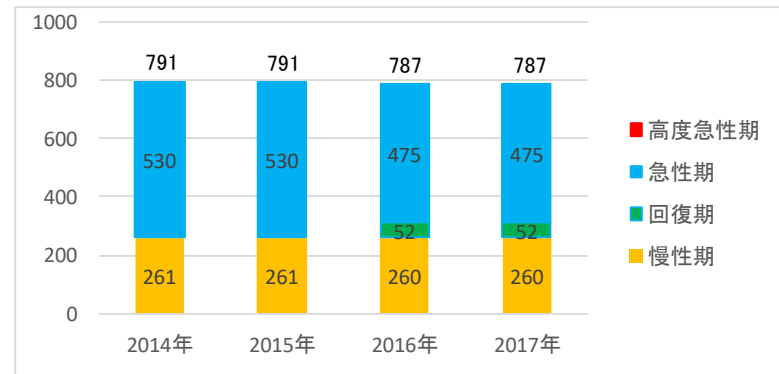
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期				
急性期	18.1	16.2	14.6	14.3
回復期			23.5	21.2
慢性期	105.5	105.0	113.4	113.8



③病床数

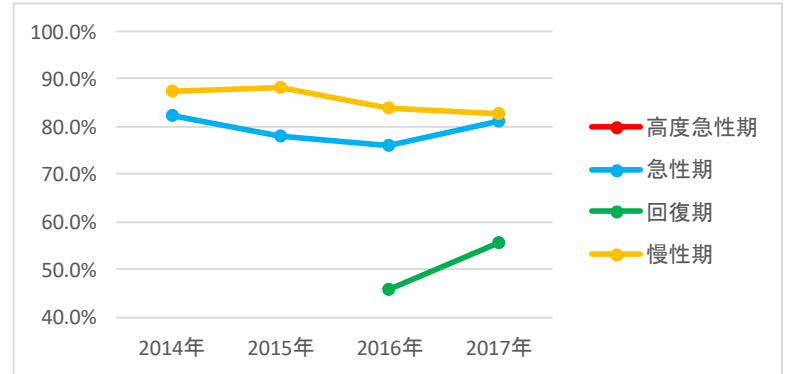
単位:床

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期				
急性期	530	530	475	475
回復期			52	52
慢性期	261	261	260	260
計	791	791	787	787



④病床稼働率

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期				
急性期	82.5%	77.8%	76.1%	81.1%
回復期			45.6%	55.5%
慢性期	87.4%	88.3%	84.0%	82.7%

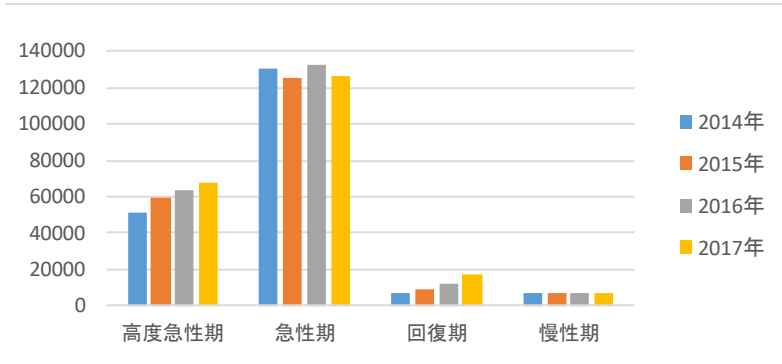


(参考資料) 新入院患者数・平均在棟日数・病床数・病床稼働率の推移 (県全体)

①新規入棟患者数

単位:人

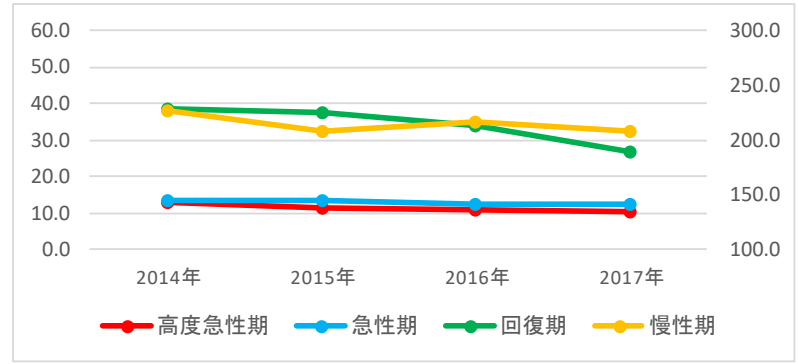
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	51542	59868	64065	67922
急性期	130997	125030	132925	126821
回復期	7098	8982	11885	17835
慢性期	6782	6952	6601	6912



②平均在棟日数

単位:日

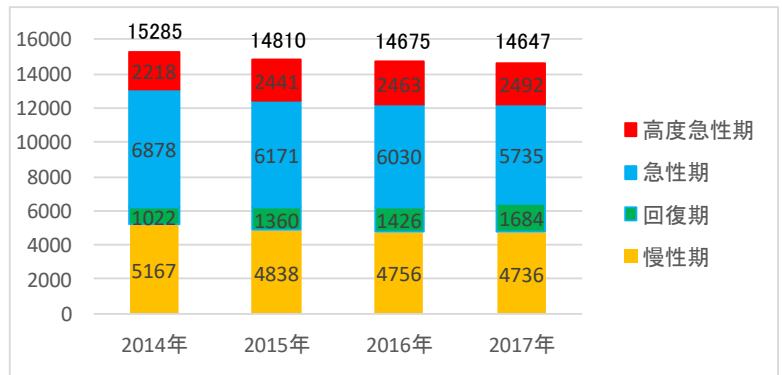
	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	12.9	11.5	11.2	10.6
急性期	13.3	13.3	12.5	12.8
回復期	38.7	37.6	33.9	26.9
慢性期	226.3	208.6	216.4	208.3



③病床数

単位:床

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	2218	2441	2463	2492
急性期	6878	6171	6030	5735
回復期	1022	1360	1426	1684
慢性期	5167	4838	4756	4736
計	15285	14810	14675	14647



④病床稼働率

	2014年	2015年	2016年	2017年
高度急性期	81.9%	77.5%	79.6%	79.5%
急性期	73.5%	76.4%	78.2%	79.7%
回復期	78.2%	77.8%	80.8%	81.8%
慢性期	87.4%	91.0%	90.4%	89.0%

